

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2152号

2013年03月04日（月曜日）

《 don't anticipate a huge financial crisis 》

懸念されたアメリカの「歳出強制削減フェーズ入り」でしたが、ニューヨークの株が一段高となって史上最高値に接近し、ドルは各国通貨に対して上昇するという展開で先週は終わりました。その理由にはいくつか考えられる。

1. あとで紹介するオバマ大統領の言葉ではないが、「(強制的歳出削減が長引けば)アメリカ全体への影響が予想されるが、当初は影響を受ける地域や産業分野も限定的」であり、過去2年の債務上限や財政の崖問題に比べれば影響は軽微との見方が支配的だった
2. 削減の中味は「今後7ヶ月間に850億ドルの歳出削減」となっているが、実際に削減される予算はこれよりかなり少ないとの見込みもあり、市場はこのフェーズ入りをかなり前から予想しており、マーケット的には織り込み済みだった
3. 2月の米製造業の景況感指数 (ISM 指数) は1年8カ月ぶりの高い水準まで上昇し、同月の消費者態度指数も市場予想を上回るなど米景気指標が良いし、今後のバーナンキ議長の「超金融緩和の継続」を示唆する発言もあり、これが株価を支えた

など。先週金曜日のニューヨークの株価の引けは最高値 (14, 164ドル) まで70ドルに接近しているので、週明けの市場の状況ではのっけから高値更新の週明けとなりかねない (抵抗感はあると思うが)。オバマ大統領は歳出削減フェーズ入りに関して以下のように述べている。

「“It may take a couple of weeks. It may take a couple of months. But I'm just going to keep on pushing on it. And my view is that ultimately common sense prevails.” The president warned the US economy and many middle-class Americans would suffer some damage. “I don't anticipate a huge financial crisis. But people are going to be hurt. The economy will not grow as quickly as it would have. Unemployment will not go down as quickly as it would have,” Mr Obama said. “Every time we get a piece of economic news, we'll know it could have been better if not for Congress's failure to act.”」

強制削減が始まるまでは、「これは大ごとになる」とバージニア州の軍の造船所にまで出かけて国民に警告を与えて野党共和党に妥協を迫っていたオバマ大統領だが、いざフェーズが変わると、「I don't anticipate a huge financial crisis」と国民の危機感を薄める努力をしているし、話し合いの決着には時間がかかることを予想する発言をしている。

これは当然で大統領自らが危機感を煽るのは危険だ。しかし大統領は上で紹介された文章の中では、「But」以下で「成長率の低下」「失業率の低下の鈍化」など、やや長期的に見た今後のアメリカ経済への影響についても触れている。

《 funding for some federal programs and agencies expires 》

歳出の強制削減の当面の影響に関しては、ウォール・ストリート・ジャーナルに「Fiscal Pain to Be Parceled Out Unevenly」という興味深い記事があった。連邦歳出削減の対象の半分は軍事予算であり、よって最初の削減の影響が出るのはワシントン DC、メリーランド、バージニアなどの首都ワシントン周り、ハワイ、アラスカなど、それに加えて New Mexico, Kentucky and Alabama などに限られる。その他のアメリカの主要地域（カルフォルニアとかニューヨークなど）については、「3月中にでも財政赤字の削減に関してホワイトハウスと野党共和党の指導者との合意が出来れば、影響はほとんどない」という内容。この記事には象徴的な言葉が紹介されている。だったら「'Why should I care?'」（なぜ気にしなくちゃいけないの）と。マーケット全体がそんな雰囲気だったのでしょ。

では今後どうなるのかについては同紙に「The Sequester: What Happens Next」という記事がある。ここで重要なのは3月27日です。この日に何が来るかというと、現行の暫定予算の失効期日。だからこの英文にもあるとおり、「Unrelated to the sequester, funding for some federal programs and agencies expires. If an agreement isn't reached, a partial government shutdown could ensue.」となる。政府窓口の閉鎖は国民にもビジブルだ。全文は以下の通り。

The federal government enters a controversial new phase of deficit cutting Friday, as an automatic trigger begins slicing budgets in some areas while leaving programs such as Medicare and Medicaid largely untouched. Here's a look at what happens next:

March 1: The White House is expected to alert agencies their budgets have been cut. Agencies will begin notifying employees, contractors, and states that spending will contract over the next seven months.

Early to mid March: Furlough notices will begin being sent by agencies to many of their employees, warning that unpaid leave could begin in 30 more days.

March 27: Unrelated to the sequester, funding for some federal programs and agencies expires. If an agreement isn't reached, a partial government shutdown could ensue.

Early to mid April: If a shutdown is averted, many agencies will begin unpaid leave for employees, typically one day per week or one day every other week. The cuts' impact may become more visible, possibly affecting places like airports.

Sept. 30: The federal budget year ends, meaning the cuts have to be accounted for by this time.

Oct. 1: The next federal budget year begins, triggering a second year of sequester cuts.

《 Kuroda and Iwata will speak out 》

マーケットは当面3月27日をこの問題の次の乗り越え期限として受け止めるだろう。それまでは「頭の隅には置くが、それほど材料視はしない問題」と強制的歳出削減を見なす可能性がある。一般的には「大きな懸念材料」と見なされた問題があったにも関わらず、アメリカのマーケットはそれを軽々と超えた。その分だけでドルとニューヨークの株は強いと考えることも可能だ。

今週の主な予定は以下の通り。

03月04日（月曜日）	（ユーロ圏）1月生産者物価指数
03月05日（火曜日）	（ユーロ圏）1月小売売上高 （米）2月ISM非製造業景況指数
03月06日（水曜日）	（米）1月製造業受注指数 （米）ベージュブック
03月07日（木曜日）	（日）日銀金融政策決定会合 （日）1月景気動向指数・速報 [先行CI指数] （米）1月貿易収支 （米）1月消費者信用残高
03月08日（金曜日）	（日）第4四半期GDP・二次速報 （日）1月経常収支 （日）1月貿易収支 （日）2月景気ウォッチャー調査 （日）3月金融経済月報・基本的見解 （米）2月非農業部門雇用者数 （米）2月失業率 （米）1月卸売在庫 [前月比]

予定には入れなかったが、日銀の次期総裁候補の黒田アジア開発銀行（ADB）総裁が4日月曜日に、副総裁候補の岩田規久男学習院大教授らが5日火曜日に衆院での所信聴取に臨

む。この二人の意見開示についてはマーケットは注目すると見られ、場合によっては一段の円安に進む可能性があるし、ニューヨークが動き出しているだけに、その場合には足踏みを続けている日本の株価にも動意が見られる可能性もある。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。日本の北は大変なことになっているようですね。数多くの方が亡くなっている。報じられている猛吹雪は、関東地方にいる私には容易には想像できない。雪の中の車に閉じ込められ、当然エンジンをかけ続けるのですが、それによって排気が悪くなると一酸化炭素中毒の原因にもなるという厳しい状況。私の北国の知識は、たまに行く冬の景色くらいで、今回の吹雪がどのくらい厳しいものか分からない。北海道や東北にお住まいの方は、「移動にもお気を付け下さい」としか言いようがない。

「日本の北にも早く春が来て徐々に雪がなくなって欲しい」と思いながら、この週末は伊豆半島に出かけて「河津桜祭り」を見学しました。染井吉野より遙かにピンク色の濃いこの桜は、まだ6分～7分の咲き具合でしたが、実に多くの方が見えていました。道も大渋滞。今週の半ばくらいが河津桜のピークではないでしょうか。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》